

鳥取県医療連携ネットワークシステム（おしどりネット）について

1 おしどりネットの概要

おしどりネットは鳥取県内の医療機関をつなぐネットワークとして、総合病院の診療情報（電子カルテ、検査結果、画像など）を他の医療機関で活用できるようにすることで、患者、医療機関の双方の「効率的でムダのない医療」の実現を目指しています。

＜これまでの経緯＞

- ・「おしどりネット」は、鳥取県内の電子カルテシステムのネットワークシステムとして、鳥取大学医学部附属病院が整備。
- ・平成 21 年度の開始当初は鳥大病院と西伯病院間のみで運用していたが、県からの補助により他の医療機関も参加できるよう改修し、当該仕様で平成 24 年 5 月 29 日から（再）スタート。
- ・システムへの参加形態としては、「相互参照」と「閲覧のみ」の 2 パターン。
 - ※相互参照： 自ら管理している電子カルテ情報（患者情報）を他の医療機関へ閲覧させるとともに、他の医療機関からの患者情報も閲覧。主に、救急患者を扱う病院がこの形態で参加。
 - ※閲覧のみ： 「相互参照」の医療機関の電子カルテ情報（患者情報）を閲覧するのみで、自ら管理している電子カルテ情報（患者情報）は提供しない（閲覧させない。）。主に回復期、慢性期患者を扱う病院や、診療所がこの形態で参加。
- ・平成 28 年度から、島根県西部の医療機関も「閲覧のみ」で参加。
- ・令和元年度からおしどりネットへの加入促進のため、医師会を中心として各圏域で医療機関向けにシステム概要に関する研修会を開催。
- ・令和 2 年度から、運営主体が鳥大病院から NPO 法人鳥取県医療連携ネットワークシステム協議会（所在地：米子市久米町 136 番地 2F、理事長：辻田哲朗（辻田耳鼻咽喉科医院））へ移行し、参加医療機関から負担金を徴収して運営している。
 - ※「地域医療介護総合確保基金医療分に係る適切な予算執行の徹底について」（令和元年 8 月 8 日地域医療計画課長・研究開発振興課長連名通知）において、おしどりネットの維持費は基金の対象として認めないと整理されており、令和 4 年度以降は負担金収入のみで運営予定である。（令和 3 年度までは激変緩和措置として基金の対象とするが金額は 1/3 ずつ通減。）

2 参加する医療機関数、地域別の内訳等

＜参加医療機関数及び登録患者数の推移（令和 2 年度は令和 3 年 1 月末時点の数値）＞

	H29 (A)	H30 (B)	R 1 (C)	R 2 (D)
開示医療機関数	18 機関	19 機関	19 機関	16 機関
閲覧医療機関数	46 機関	49 機関	73 機関	67 機関
合計	64 機関	68 機関	92 機関	83 機関
登録患者数	3,219 人	4,790 人	6,701 人	8,262 人

※法人化に伴い負担金を徴収することとなったため、一部の医療機関が脱会したことにより令和 2 年度の参加医療機関が減少している。

＜圏域別内訳】（令和 3 年 1 月末時点）＞

	東部	中部	西部	島根県	合計
開示医療機関	4 機関	3 機関	9 機関	0 機関	16 機関
閲覧医療機関	15 機関	4 機関	41 機関	7 機関	67 機関
合計	19 機関	7 機関	50 機関	7 機関	83 機関

3 今後の見込み

- ・病院・診療所だけでなく、薬局、介護施設や訪問看護ステーションなどにも対象を拡大し、令和 2 年度から 3 つの薬局がテスト参加しており、令和 3 年度には、鳥取赤十字病院、清水病院が開示医療機関として参加する予定である。
- ・県としては、NPO 法人と連携して、県内医療機関への加入促進の働きかけや、県民の方への周知を図るとともに、参加医療機関の利便性向上のための機能追加等に対する費用面の支援についても、必要に応じて引き続き行っていく。